

自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 * ( )は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者の意見	
中高一貫教育の推進	(全校レベル) 中高それぞれが相乗効果を生み出し、本校の活性化に役立っている。本校の活性化に役立っている。	評価指標 「中高それぞれが相乗効果を生み出し本校の活性化に役立っている」と答えた生徒・保護者・教職員が50%以上。	評価指標による達成度 「中高それぞれが相乗効果を生み出し、本校の活性化に役立っている」と答えた生徒34%(+6p), 保護者67%(-6p), 教職員43%(+7p)	総合評価  B  (所見) 中高の相乗効果については生徒・教職員ともに肯定的に捉える割合は上昇しているが、結果としては厳しい評価である。中高一貫教育をより良いものになりたいという願いの現れである。中高合同の行事は多くありバランスが取れており、一定の成果は認められる。しかし、両者にとってもっと有益な交流にしなければならない。中高の共存による不便さはあるが、半数以上の生徒が肯定的にとらえている事は評価できる。	①中高一貫教育の推進は、城ノ内の最大の魅力としなければならない。そのことが当然であるため、「相乗効果を生み出している」の肯定感が低く出ている。現状は中高の交流は十分できていると評価できる。素直に肯定感が高まるように努力してほしい。 ②中高一貫のために制約はあるが、それを克服し、中高の交流をより一層進めてほしい。
	(下位組織レベル) 中学生と高校生の関係は良好である。	「中学生と高校生の関係は良好である」と答えた生徒が50%以上。	「中学生と高校生の関係は良好である」と答えた生徒51%(+9p)		
		活動計画 ①吉野川堤防清掃作業を中高合同で実施する。 ②城ノ内祭を中高合同で開催する。 ③一部の部活動で中高合同の練習を行う。	活動計画の実施状況 ①吉野川堤防清掃作業を中高合同で3回実施した。 ②文化祭、体育祭を中高合同で開催した。 ③美術部や弓道部など12部で合同練習を行った。		
確かな学力と進路観の育成	(全校レベル) 授業の充実改善に積極的に取り組み、きめ細かな進路指導を行う。	評価指標 「教員は学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「教員は学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒79%(-1p), 保護者82%(+1p), 教職員98%(+5p)	総合評価  A  (所見) 学力を伸ばす教育は一定の評価を得ているが、進路相談の取組について、生徒・保護者と教職員に差が見られる。三者面談やPTA総会・学年部会などで保護者に対する進路相談を充実させる必要がある。その上で、家庭の教育力や指導力を学校との連携を深めながら、充実させたい。授業評価では「受けた授業の良かった点」が昨年度を上回る結果であった。	①授業の相互参観は、「参観週間」を設けて実施してはどうか。 ②「進路指導ができていく」との教員の回答が多いのは指導に自信とプライドがあり、実践できているということである。 ③次年度からのリーディングハイスクール事業への取組では、生徒の習熟度への配慮が必要である。対応をしっかりと行うようにする。 ④⑤⑥次年度からリーディングハイスクール事業を進めるにあたってしっかりと学力向上に取り組む。
	(下位組織レベル) 研究授業・授業研究会の実施。 進路別集会や学年集会の実施。 進路相談体制の確立。	「教職員はわかる授業を目指して授業を工夫している」と答えた教職員が70%以上。 「生徒の希望を尊重したきめ細かな進路指導ができていく」と答えた生徒・保護者が70%以上。 「先生は生徒の進路相談や悩みについてよく相談にのってくれる」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	「授業の充実・改善に積極的に取り組んでいる」と答えた教職員98%(-2%) 「生徒の希望を尊重したきめ細かな進路指導ができていく」と答えた生徒70%(±0p), 保護者73%(-2p) 「先生は生徒の進路相談や悩みについてよく相談にのってくれる」と答えた生徒70%(±0p), 保護者70%(-3p), 教職員93%(+9p)		
		活動計画 ①研究授業・授業研究会を中高合同で実施する。 ④学習実態調査と進路希望調査を実施する。	活動計画の実施状況 ①中高合同での研究授業・授業研究会を年8回実施した。 ④学習実態調査(4年11回, 5年9回, 6年6回)及び、進路希望調査(4年3回, 5年4回, 6年2回)実施した。		

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 * ( )は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者の意見	
人権教育の推進	すべての教育活動で人権教育の推進を図る。 (下位組織レベル) ホームルーム活動や学校行事の充実を図る。	すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。  「生徒は自他を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。  活動計画 ①人権ホームルーム活動の研究授業、事前研究会を実施する。 ②人権教育意見発表会を実施する。 ③人権問題講演会等を実施する。 ④職員研修を充実する。	すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒70% (+3p)、保護者87% (+4p)、教職員93% (+4p)。  「生徒は自他を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒70(-1p)%, 保護者86(+4p)%, 教職員76(+3)%  活動計画の実施状況 ①各学年で研究授業を実施するとともに、毎回、事前研究会を学年別実施した。 ②全校生徒を対象に人権教育意見発表会を実施した。 ③5年生を対象に人権問題講演会を実施した。 ④中高合同の校内研修会を2回、地域研修会を1回実施した。	A  (所見) 評価指標、及び活動計画の数値目標は達成されている。しかし、達成度における生徒の評価はともに70%ちょうどであり、引き続き重点的に指導する必要がある。また、下位組織レベルの問いへの回答は生徒、教職員ともに高いものとは言えず、ホームルーム活動や学校行事での取り組みについて、その内容を再検証する必要がある。	①学校生活のアンケート調査により、実態の把握に努めているようだが、アンケート結果を有効に活かす手段を考える事が必要である。客観的な分析をすることも必要である。  ①研修を充実し、教職員が人権感覚を一層磨くとともに、差別やいじめを許さない、見逃さないとする姿勢を示し、教育活動全体に人権尊重の精神がみなぎる学校づくりを推進する。 ②定期的にアンケート調査を実施し、生徒の悩み等を把握し迅速に対応する体制づくりを学校全体で進める。 ③人権を身近な問題として考えられるよう人権ホームルームの内容を工夫・改善する。
基本的な生活習慣の確立と道徳性の涵養	(全校レベル) 学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立を図る。 (下位組織レベル) 「挨拶の励行」の徹底。  城ノ内生としての自覚ある行動。  「時間厳守」の徹底。  「服装頭髪」指導の徹底。	評価指標 「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者・教職員が70%以上。  「挨拶の励行ができています」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。  「城ノ内生としての自覚を持った行動ができています」と答えた生徒・教職員が70%以上。  「時間厳守ができています」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。  「服装頭髪が守られている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。  活動計画 ①遅刻者は「遅刻カード」を提出する。 ②服装頭髪検査を定期的実施する。 ③自転車の駐輪のしかたを指導する。 ④家庭との連携を図る。	評価指標による達成度 「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者74% (+1p)、教職員83% (±0p)  「挨拶の励行ができています」と答えた生徒67% (-1p)、保護者81% (-2p)、教職員74% (+4p)  「城ノ内生としての自覚を持った行動ができています」と答えた生徒62%、教職員71%  「時間厳守ができています」と答えた生徒73% (+2p)、保護者88% (+1p)、教職員83% (-5p)  「服装頭髪が守られている」と答えた生徒63% (-3p)、保護者88% (+1p)、教職員79% (+1p)  活動計画の実施状況 ①授業遅刻も含めたすべての遅刻者は「遅刻カード」に理由を記入し、教頭の指導を受けてから入室させた。 ②定期的に、学年集会やショートホームルームで服装頭髪検査を実施した。 ③年度当初、それ以後は適宜、教員が直接指導を行った。 ④PTA総会や学年部会、及び三者面談時に、指導に対する理解と協力を要請した。	B  (所見) 生徒は、挨拶の励行、服装頭髪に関しては十分にはできていないと自覚している。これは、生徒に自覚はあるが行動ができていないことが原因と考えられる。 服装、交通マナー、遅刻などの指導は、学年集会を頻繁に行っており、基本的な生活習慣の確立には一定の成果は見られるが、挨拶の励行などが十分行えない生徒もいる。 内面に問題を抱える生徒、将来への不安を抱える生徒が増えている。城ノ内中学校から入学する生徒は期待も大きく、そんな中で、生徒自身の葛藤がある。矛盾の多い中で、生徒一人一人に応じて、温かい目で見守りつつ、じっくり育てていく指導が求められている。	①服装はほぼ守られていると判断できる。 ②挨拶は幼い頃からの習慣づけが大切であるが、生活の基本であるので、しっかり挨拶できるようにしてほしい。また、挨拶がしっかりとできるように指導もお願いしたい。 ③生活態度に関する生徒の回答で、「できている」の回答がやや少ないのは生徒の素直な感覚が出ていると判断できる。  ①生徒や教職員が生活面で実践できていないことを明確に意識し、学校全体で生活指導、交通安全啓発などの指導を期を逃さず行う。意識レベルから実践するレベルに移せるような指導を行う。 ②家庭との連携をさらに緊密にする。生きる力を持ち、周囲と協調しながら社会生活ができる生徒を育てる。 ③挨拶は、本校の生徒同士や職員に対してだけではなく、交通マナー等で信頼を失いつつある近隣住民の方に対しても行うように指導をする。 ④服学期始めの服装頭髪検査は定着している。しかし、指導はその時のみで終わるので、個々の教師が常に細かいところまで服装頭髪指導をしていく必要がある。

自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 価 * ( )は昨年度との比較で、増減ポイントを表す 学校関係者の意見	
防災・安全教育の徹底と環境教育の推進	(全校レベル) 清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている。	評価指標 「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている」と答えた生徒・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている」と答えた生徒59%(-5p), 教職員74%(-9p)	総合評価 C  (所見) 「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている」についてのポイントが大きくなり、深刻な事態と思われる。「防災意識の高揚と取組の推進」については、教職員のポイントが上昇し望ましい。生徒の登下校における交通ルールの遵守状況は昨年と変わらないが、生徒・教職員とも数値は激減している。交通ルールやマナーが守られていないと言うことが、生徒や教職員に深く理解されるようになってきた証拠である。命を守る指導の徹底を実践していくための心理的土台ができてきたと考えられる。さらに命の大切さや、交通安全指導の徹底に努めなければならない。
	(下位組織レベル) ゴミの分別や節電・節水に取り組む。  防災意識の高揚に努め、防災への取組を推進する。  交通ルールや交通マナーを守る。	「ゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒・教職員が70%以上。  「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。  「交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒・教職員が70%以上。	「ゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒62%(±0p), 教職員74%(-4p) 「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒62%(±0p), 保護者76%(+2p), 教職員79%(+6p) 「交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒34%(-11p), 教職員41%(-22p)	
		活動計画 ①吉野川堤防清掃活動や学校周辺清掃活動に年3回以上取り組む。 ②防災避難訓練(火災・地震・津波)を年2回実施する。  ③毎月1回交通マナーアップ運動を行う。  ④交通安全教室を年1回実施する。	活動計画の実施状況 ①吉野川堤防清掃活動を、中高合同で3回実施した。(7月, 10月, 12月) ②防災避難訓練(地震・津波, 火災)を2回, Jアラートによる退避行動訓練を2回実施した。 ③毎月1回, 生活委員と教員による, 自転車通学生の交通マナーアップ運動を展開した。また警察と連携し, 交通安全キャンペーンを行った。 ④外部講師による交通安全教室を実施した。	①外から見ていると交通ルールなどは遵守できていると判断できる。教員から注意されることが多いため、「守られていない」という回答が多いのであろう。また、これは、高校だけの問題ではないので、警察へ指導を依頼する方法もある。 ②学校は近隣の方の避難場所でもある。学校として、生徒・教職員用に備蓄している物品等の使用等について、十分な配慮が必要である。 ③大雨特別警報等の異常気象に対し、生徒の安全対策等をしっかりしてほしい。
特別活動の活性化	(全校レベル) 学校行事を充実させ、学校全体を活性化する。	評価指標 「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒80%(-4p), 保護者88%(-4p), 教職員88%(-5p)	総合評価 A  (所見) 生徒、保護者からは、特別活動について高い評価を得ている。学校行事も充実している。部活動への取り組みは、生徒の回答ポイントが下がってはいないが好評価を得ている。
	(下位組織レベル) 部活動を活発にする。  部活動と勉強の両立を図る。	「部活動は活発である」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。  「部活動と勉強の両立を図ろうとしている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	「部活動は活発である」と答えた生徒78%(-10p), 保護者86%(-7p), 教職員76%(+1p) 「部活動と勉強の両立を図ろうとしている」と答えた生徒79%(-4p), 保護者86%(+2p), 教職員83%(-2p)	
		活動計画 ①部活動を活性化する。  ②生徒会活動を活性化させる。	活動計画の実施状況 ①部活動加入率は4年84%, 5年91%, 6年78%[4月末現在] ②「生徒会は活発に活動している」と答えた生徒61%(±0p), 教職員86%(+6p)	①保護者は、入部率が高い本校で部活動をしている生徒の様子等から「熱心に活動している」と判断し、また、同時に、期待も込めた回答である。 ②中1生と高3生のように成長段階が大きく異なる両者が活動する不便さの中に付加価値を見い出してほしい。 ③部活動と学習面のしっかりした両立を望む。

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 * ( )は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者の意見		
開かれた学校づくりの推進	(全校レベル) ホームページの充実や学校公開の日を実施する (下位組織レベル) ホームページの更新回数を増やす。  中学生体験入学や学校公開の日の実施。  城ノ内祭の公開。	評価指標 「ホームページは本校を理解してもらうのに役立つ」と答えた保護者が70%以上。  ホームページの更新にすべての教員が関わり、少なくとも週に一回は更新する。  「中学生体験入学や学校公開の日は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者・教職員が70%以上。  「文化祭の公開は本校を理解してもらうのに役立つ」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。  活動計画 ①ホームページを随時更新する。  ②中学生体験入学を実施する。  ③「学校公開の日」を実施する。  ④文化祭を公開する。  ⑤スクールガイドを発行する。	評価指標による達成度 「ホームページは本校を理解してもらうのに役立つ」と答えた保護者86%(+4p)  多くの教員がホームページの更新ができるようになり、学校全体として平均週2回以上は更新することができた。  「中学生体験入学や学校公開の日は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者82%(-2p), 教職員74%(-10p)  「文化祭の公開は本校を理解してもらうのに役立つ」と答えた生徒79%(±0p), 保護者92%(±0p), 教職員86%(-9p)  活動計画の実施状況 ①ホームページへの年間アクセス数は331,225回(昨年比54.5%増), 総アクセス数1,259,134回(2014/2/28現在04/10/20~) ②中学生体験入学への参加者406名。 ③学校公開の日への参加者545名。 ④文化祭を公開し, 1918名が来校した。 ⑤スクールガイドを改訂した。	総合評価  A  (所見) 体験入学, 文化祭や学校公開は本校理解に効果的であると判断でき, 今後も継続していく必要がある。また, ホームページは, 500回以上更新しており, 内容も充実している。このため, ホームページへのアクセス件数が大幅に増加している。	①学校からの情報公開は保護者も望んでいる中, かなり充実している。また, 行事などのホームページへの掲載が非常に早く, こちらも充実している。更に情報公開の充実に努めてほしい。	①単位制への移行を次年度に控え, 学校理解促進のため, スクールガイドの大幅な改訂を行う。 ②中学生体験入学の参加者がさらに増えるように, 内容の一層の工夫充実を図るとともに, 広報活動にも力を入れる必要がある。 ③懸案である高校からの志願者増を実現するために, 本校の魅力を最大限にアピールできる新たな教育を作り出す。 ④ホームページを更に充実したものにす。
	学校運営体制の充実	(全校レベル) 月例運営委員会や職員会議を活性化させるとともにPTA活動の充実を (下位組織レベル) 月例運営委員会で学校生活や教育活動全般を点検するとともに, 各学年, 各課などにおいて課題解決を図る。	評価指標 「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒・保護者が70%以上  「勉強・部活動・学校行事など豊かな教育活動が行われている」と答えた生徒・保護者が70%以上。  「PTA活動や学年部会は活発である」と答えた保護者・教職員が70%以上  活動計画 ①運営委員会を毎月1回開催する。  ②定期的に学年会を開催する。  ③中高合同PTA役員会を年5回開催し課題解決に取り組む。	評価指標による達成度 「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒77%(-3p), 保護者82%(-3p)  「勉強・部活動・学校行事など豊かな教育活動が行われている」と答えた生徒87%(-3p), 保護者91%(-3p)  「PTA活動や学年部会は活発である」と答えた保護者85%(-1p), 教職員98%(+5p)  活動計画の実施状況 ①運営委員会を毎月1回実施し, 各課題について検討・協議した。(年12回開催) ②学校行事やLHRの事前打ち合わせ, 生徒理解など, 必要に応じて学年会を開催し ③中高合同PTA役員会が4回開催され, 活発な議論のなか, 空気清浄機設置等が決定された。	総合評価  A  (所見) 全項目で評価指数を上回っており, 生徒・保護者の大半が学校生活や教育活動全般に満足している。また, 「PTA活動は活発である」と回答した割合が非常に高く, 多くの保護者から学校への理解と支援を頂いた結果である。運営委員会では, 連絡事項が多く, 協議事項が少なくなってきた。何事もスムーズであり運営体制はよく整っている。きめ細かな連絡, 双方向のコミュニケーション, 仕事への信頼度等がそろっており素晴らしいと判断できる。しかし, 新しいことや革新的なことを議論するまでに到らないこともある。	①PTA総会を始め様々な活動に積極的に参加している保護者が多い事から, 高く評価できる。また, エアコンや空気清浄機の設置など教育環境の整備に対してバックアップ体制を取ろうとしている状況が保護者に浸透しており, 評価できる。 ②次年度への課題と改善方針に記載していることをしっかりと実践してほしい。